

流水俳壇

松尾 満津於 選

「当季雑詠」

友草 水月

猪よけの柵斜交はすかいに春の立つ

(評) 猪の害から田畑の作物を護るために、トタン板などで斜交に作った柵。陰曆で正月のことを立春とか、春立つと云うが、現今ではそんなことにとられず、単に春を感じるようになったときが立春であり、春立つということである。もうすでに用済みとなった田圃の案山子と同じ存在として、立春の猪よけ柵が残っているのである。

ぼつぼつと梅咲き初むるすたり畑
(評) 梅は早春の頃他の百花に魁さきがけて咲く。色は紅、白、淡紅色があり、その種類も、有名な産地も多い。野梅も多く日本の各地でその実梅を食用として採取している。この句の梅も自然の中にあるものであろう「すたり畑」は人手不足で作れない

渡辺 万利子

た記憶するが、二十二歳の男が他人の免許証を盗んで車を運転中、交通事故を起こし栃木県の病院に運ばれた。免許証の本当の持主の母親が、八丈島からかけつけてきて看護した。一週間後に顔の包帯がとれてみると、あかの他人だった。吾が子でないことに気付きながらも、消息不明の

畑。春がそこまで来ており、もうすぐ多忙な季節となる、切羽詰った思いがこめられた句である。

弘瀬 うき子

楮蒸す煙る山巖やまのいわ茜空

(評) 近年珍しくなつた風景ではあるが、晩冬の山村にはこの句のような情景が時折見かけられる。山巖やまのいわに柵引いている煙と、茜色に染まった空との対照が美しい句。

中屋 桜子

道德の薄れし世相豆を撒く

(評) 「道德」は俳句の世界ではあまり馴染みのない言葉だが、こんな句が生まれてもおかしくない今の世相である。昭和四十七、八年の頃だったと記憶するが、二十二歳の男が他人の免許証を盗んで車を運転中、交通事故を起こし

息子になりきつて「お母さん」と呼びかけた演技に乗りながら彼女は五ヶ月間寝食を共にし、生命の安全を確かめた後、怒るでもなく、不平を云うこともなく平然と島に帰つたという新聞記事を見たことがあ

る。受けとめ方は人夫々であるが、少なくともあたたかい絆の芽生えを感じた人も多いのではなからうか。それから三十数年経過した今日、世の中はどう変わったのか？オ

レオレ詐欺、振り込め詐欺、強盗、殺人、痴漢等、報道される記事の中には道德の一片もな

い。学校教育、家庭の躾、政治、世情、等々を考えさせられることは多い。正に「鬼は出て

行け」である。蛇足を省みず、つい言ってみたくなる句。

北川 一深

のけぞりて渾身一打除夜の鐘

雪の伽藍鳥がらんの足跡つづきけり

落のとう地産地消の顔見知り

森元 二美子

いきいきと生きる八十路やそじの春帽子

間 浩太

露天湯の底まで冬の星月夜

川村 博子

定刻のスクールバスや日脚のぶ

ふる里の川の流れも春の彩

岡本 とも子

聞いてやるだけの励まし日向ぼこ

駅伝の群を抜きたる息白し

竹崎 光子

豆撒くや心に鬼を潜ませつ

隙間風周り回って骨身刺す

友草 寒月

嬉しげに艶ある水辺猫柳

荷を負いて氷柱つららかじりし日の遙か

川村 愛

はんなりと烏帽子姿の鞠始

伊藤 たみ

重ね着し話にはずむおうなたち

鈴木 公子

春時雨はたち二十才のままの遺影かな

満津於

次題「当季雑詠」

4月25日締切「五句」

問い合わせ・提出先

吾北教育事務所

いの町上八川甲2010

867-2133



安全・安心まちづくり

研修会を開催

2月20日、伊野公民館で、伊野地区地域安全協会・伊野地区少年補導員連絡協議会・伊野警察署による「安全・安心まちづくり研修会」が、開催されました。

研修会では、振り込め詐欺・少年非行・侵入盗のビデオ上映や、伊野署員による管内の犯罪概況の説明など、身近で起こっている犯罪が紹介されました。また、いのみなみタウンポリスの活動報告や、参加者が地域活動の中で感じることなどについての意見発表も行われました。

そして、大人との信頼関係が築かれ、非行防止につながる「声かけ」や思いやりの大切さについて再認識していただきました。



伊野地区地域安全協会
伊野地区少年補導員連絡協議会
の警察署